

自治体回収の実態と工夫

1

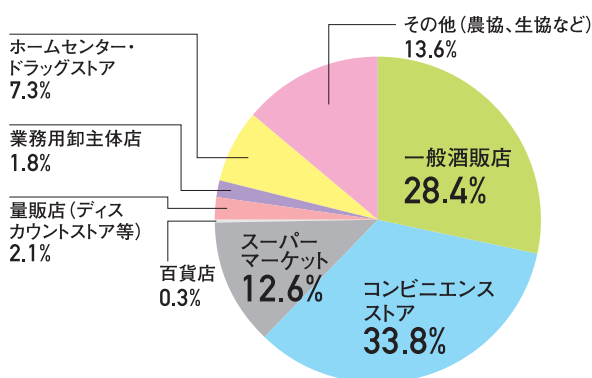
自治体による分別回収の実態⁹

「酒屋に返す」から「自治体の回収に出す」へ

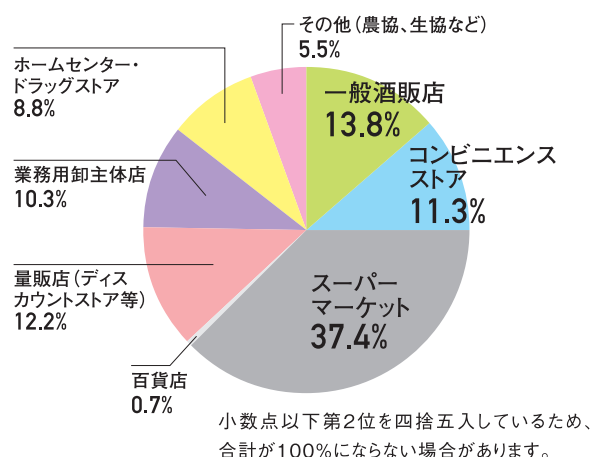
国税庁の調査によると、2015年（平成27年）度の酒類販売場は全国で約16万2千場で、そのうち一般酒販店は28.4%、コンビニとスーパーで46.4%と大きな割合を占めています。また販売数量の内訳では、824万7千キロリットルのうち一般酒販店のシェアは

13.8%、コンビニとスーパーで48.7%と半分近くを占めています。コンビニやスーパーは1.8ℓびんを引き取ってくれるところが少ないこともあり、「空きびんは酒屋に返す」という習慣がなくなりつつあります。

〔酒類の販売場数〕



〔酒類の販売数量割合〕



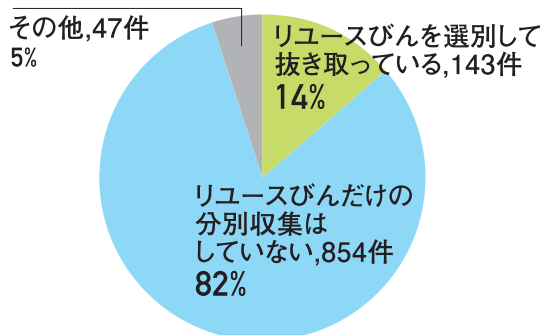
自治体回収の増加

第1章でみたように、酒屋に返す代わりに自治体回収が重要なルートになってきました。アンケート調査では、資源ごみの排出時に、リユースびんだけ分別している市区町村は13.7%でしたが、びんを収集した後にリユースびんを選別している市区町村を含めると、

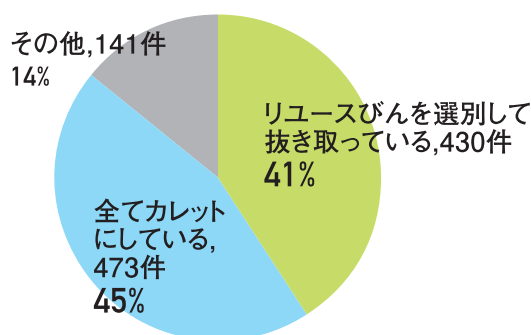
41.2%の市区町村がリユースびんを回収していることがわかりました。

リユースびんとして回収しているのはほとんどが1.8ℓびんとビールびんでした。

〔リユースびんの分別収集の有無〕



〔リユースびんの選別の有無〕



9 日本酒造組合中央会「平成27年度1.8ℓびんの再使用率向上策の調査研究」

自治体ルートでの回収量

びん商への売却・引き渡し実績について回答があった市区町村357団体の1.8ℓびん回収（売却・引き渡し）量は、合計741万本でした。これは回収びん使用量約1億本の7.4%に相当します。

回収量の多い自治体は、仙台市、東京都大田区、八王子市、東京都板橋区などの順になっています。人口1人あたりの回収量は0.01～2.73本と幅がありましたが、全国平均は年間0.07本でした。

〔1.8ℓびんの回収量が多い自治体（本/年）〕

	自治体	人口	総回収量	1人あたり
宮城県	仙台市	1,083,079	425,198	0.39
東京都	大田区	712,000	213,584	0.30
東京都	八王子市	562,795	207,327	0.37
東京都	板橋区	549,571	197,471	0.36
東京都	杉並区	552,645	190,350	0.34
秋田県	秋田市	317,571	161,600	0.51
茨城県	北茨城市	43,809	119,594	2.73
千葉県	柏市	356,351	119,484	0.34
神奈川県	相模原市	723,884	116,220	0.16
群馬県	高崎市	375,496	104,976	0.28

1.8ℓびんの値段

自治体が回収した1.8ℓびんをいくらで売却しているかを調べました。空きびんの値段（自治体がびん商などに売却した価格）はびんの需要が多い地域ほど高くなっています。ビールびんは1本5円の保証金がついているので、全国的に価格は4円から6円となっています

が、1.8ℓびんは地域によって価格が大きく違ってきます。沖縄県では1.8ℓびんは1本20円もします。また需要の多い九州地方は8円、関西地方は7円となっており、発生量が需要量を大きく上回る関東地方では2円となっています。

〔回収したびんの売却価格〕

